

第3回「核なき未来」オピニオン U-30 の部 最優秀賞作品

核兵器禁止条約から目を背ける日本のリーダーへ。

西山 厚人

私は京都の中小企業で働く 27 歳の青年です。パートナーと二人暮らしをしています。きっと読んでくれるということを感じ、平和への想いをぶつけます。

唯一の被爆国である日本は、核兵器禁止条約に批准していません。私は、日本は今すぐにも核兵器禁止条約に批准すべきと考えます。核兵器は大切なものを奪うから。このことに尽きると思います。

私は小学 4 年生の時に広島へ行きました。初めて生で原爆ドームを見た時、崩れそうな脆さとともに、どこか力強さを感じました。資料館では、色々な展示物を見た記憶が残っています。広島市内があたり一面焼け野原になっている当時の写真、皮膚がただれ水を求めて川に集まる人々の絵、針が止まった時計…。中でも衝撃だったのは、放射能によって皮膚に斑点ができた人の写真でした。核兵器は、投下されたその瞬間に猛威を振るうだけでなく、生き延びた人をも苦しめる、とても恐ろしい兵器であることを知りました。リーダーのみなさんも、核兵器の脅威については当然ご存知だと思います。

核兵器は、大切なものを奪います。このメッセージを書くにあたって、私にとっての大切なものは何か考えました。それは、何気ない一日であるということに気がつきました。

今日もいつものように朝 7 時に起きました。疲れが取れず体が重かったですが、今日も頑張ろうと自分に言い聞かせて布団から出てきました。朝食にお米と昨日の夕食の残りの味噌汁を食べ、歯磨きと洗顔と着替えを急いで済ませて家を出ました。会社に到着してから間もなく営業に出かけ、訪問先で最近の顧客の課題を聞き取ります。今日は納品した商品についての反応を聞き、評価してもらったので嬉しい気持ちになりました。12 時前に会社に戻り、お弁当を食べた後は少しばかり昼寝をします。午後からは会議が 2 本連続でありました。夕方になるにつれ集中力がきれ、早く家に帰りたい気持ちが高まりました。会議後は、帰宅後のイメージをして、もう一度気持ちを切り替え、溜まった事務作業に取り掛かりました。帰宅したのは 20 時ごろ。そこからパートナーと録画したテレビドラマを見ながら夕食。ドラマの展開について話をしていると、「今日も終わった」と思いホッとします。皿洗い、入浴、翌日の弁当を用意して 12 時前に床につきます。平凡な 1 日でしたが、私は自分が生きていることと、自分は幸せだということを実感しました。

時代や場所は違えど、広島や長崎で亡くなった人たちも、彼ら・彼女らにとって、大切な日常があったと思います。そして、これからも平凡な日々を過ごしていきたくったに違

いありません。戦争で何万人もの人たちが亡くなったと言うことは簡単です。しかしその亡くなった一人ひとりに生活があり、願いがあり、命があったことが想像できます。過去の戦争、今起きている戦争から、私たちは学ぶべきだと思います。私は、人生が戦争や核兵器という自分の力ではどうすることもできない大きな力によって脅かされるのは絶対に嫌です。また、自分の大切な家族や友人の命が奪われることも、絶対に許せません。それは、リーダーである、あなたたちも同じではありませんか。

「戦争を起こさないために核兵器保有を」と主張する人もいます。しかし核保有国であるアメリカやロシアが戦争をしている昨今、核保有が戦争の抑止につながらないというのは火を見るより明らかです。日本のリーダーは核の傘に入って日本の安全が保障されていると思っているかもしれませんが、私はむしろ危険にさらされているような気がしてなりません。例えば、アメリカの軍隊が攻撃に向かおうとする時、基地がある日本は攻撃の標的にされるのではありませんか。そして標的にされうるから、防衛費が年々増加しているのではありませんか。本当に必要なのは軍事力の対抗なのではないでしょうか。違うと思います。そもそも世界中から戦争の火種がなくなるよう、外交努力をしてください。その意思表示として、核兵器禁止条約への批准は大きな意味を持ちます。私たちの大切なものを守り続けるために、核兵器をなくす大きな一歩を踏み出しましょう。

最後に。失礼を承知の上で言います。私は時に、日本のリーダーであるあなたたちが暴走しているように見える時があります。権力者に歯止めをかけるのが憲法です。日本国憲法の中でも、特に皆さんに再度読んでほしい9条を書いて、メッセージは終わりにしたいと思います。

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

以上です。目を背けないでください。